

緑蔭号と名づけて、八月号を幼児教育とは直接に関係のない読書のすすめとしてから、もう二十年以上になると思う。幼児教育は成長しつつある人間を相手にするのだから、狭い考えに閉じこもらないで、広く人間のことを考える時を養いたいと思う。

緑蔭といえは、樹木の蔭での読書である。春早いころから樹木の緑は一週間ごとに変化して夏には濃い緑となる様は、世俗のことであくせくしている私共の神経を休ませてくれる。先日、お茶大で生物学の教授をしておられた大槻虎男先生ほか数人の長老教授において、大塚のお茶大構内の植物について実地にはなしを伺った。その記事は間もなく本誌に掲載されるが、同じようにみえる樹木の緑にも、さまざまな面白さがあることに気付かされた。附属幼稚園の園庭に、にわたこや菩提樹の木があることもこのときに教えられた。また旧約聖書に出て

くるアブラハムのモレのテレビンの木とは何なのか、それと縁の深い珍しい樹木がお茶大の中にあることも、三十年もこの中を歩きながらはじめて教わった。そのあと、大槻虎男著『聖書の植物』（教文館）を送って頂き、パレスチナの植物をひとつひとつ実地にあたって植物学上、また聖書との関連で詳しく解説されているのを実に興味深く読んだ。宗教や思想も、緑蔭と共に理解するときに具体的な人間のこととなるように思った。この著者はすでに八十歳の高齢であるが、数年前にこの書物を出版され、なお、次の著作に従事しておられる。晩年の未来は人生の完成の時であることを思わされた。

緑の樹木はだれをも拒まない。近寄ってくる人を、だれでも受け入れてくれる。樹木に寄りかかると心が和む。夏の日の下、緑蔭の読書は貴重である。

(津守)

幼児の教育 第八十二巻 第八号

八月号 © 定価二七〇円

昭和五十七年七月二十五日 印刷
昭和五十七年八月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行人

東京都文京区大塚二ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

●本誌御購読についての御注文は発売所
所フレイベル館にお願いいたします